日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（DC会館）
電話（鉄電）千葉２９３５・２９３９番
（公）０４３（２２２）７２０７番
ＦＡＸ ０４３（２２４）７１９７番
2000.9.11 No.5192.

# 東労組はガタガタ！「組織対策」で 海宝が鴨川運輸区に異動

（東労組千葉支部長）

## 異常な人事異動

9月1日付で、習志野運輸区からＪＲ東労組の海宝が鴨川運輸区に異動発令になった。

海宝は、東労組千葉地本の専従執行委員をやり、現在は千葉支部長の位置にある革マル分子だが、居住地は船橋・市場町の社宅で、出身・実家は銚子だ。鴨川とは縁もゆかりもない人物である。それを鴨川運輸区に異動するなど前例のないことだ。異例というよりも「異常」と言った方がいいだろう。

海宝の鴨川転勤は、この数か月前から運転関係の各職場ではずっとうわさされていたことだった。「東労組の鴨川運輸区分会の組織がもたないから、組織対策で海宝が鴨川運輸区に転勤になる」とい　うわさだ。結局誰もが「まさか」と言っていたことが現実となったのだ。

東労組の組織対策のだけを目的とした人事異動などあっていいはずはない。実際現場では、こんな異動なやり方に対して疑問や怒りの声があがっているが、現場の管理者も「東労組の組織対策が目的でしょう」と認めざるを得ない状況だ。

## 海宝という人物

そもそも海宝という人物は、動労千葉の分離・独立の後、一九八二年七月に、動労千葉破壊のために、旧動労本部と東鉄当局によって、東京（武蔵小金井）から千葉に送り込まれてきた革マル分子だ。

当時の千葉鉄道管理局は、その前の年から、「動労本部が組織対策のために千葉鉄に二名の受け入れを迫っている」と言い、この異動が動労のゴリ押しによるものだということを隠そうともしなかった。ちなみにこのときに東鉄から送り込まれたもう一人は長谷川である。

実際この二名は、動労千葉の分離・独立の過程で、「再建オルグ」と称する職場への暴力的襲撃の先頭にたっていた札つきの革マル分子であった。

しかも海宝は、後に船橋の国鉄宿舎に引っ越すが、当時は東京在住のままで、国立の宿舎からずっと通勤していたのだ。東京から千葉に転勤するような理由は全くなかったのである。

要するに海宝は、この20年来、革マルの動労千葉対策要員として、当局と結託してその急先鋒にたち続けてきた人物なのだ。

## なれの果ての姿

だが、「組織対策」のために会社を頼ってこんなメチャクチャな異動をゴリ押ししなければならない東労組の組織とは一体何なのかということが問われざるを得ない。現実はガタガタ、ボロボロ、お寒いかぎりの実態だということだ。

たしかに鴨川運輸区は、勝浦運転区廃止－鴨川運輸区新設時にやはり東労組の組織対策で東京から送り込まれてきた分会の中心人物がハレンチ罪で退職するなど、組織の体をなしていないだが、こうしたことは鴨川運輸区分会だけのことではない。そもそも地本全体が組織の体をなしていないのだ。だから、地本の専従書記長までが、高崎から送り込まれてくるという状態だ。これは、会社の力だけを頼りとして生きてきた東労組のなれの果ての姿と言っていい。

## 組合のやる事か

一方これ自身が、東労組は断じて「労働組合」などと呼ぶことのできない組織だということを示すものでもある。

労働組合の運動は、その組織がいかに困難な状況に直面したときでも、職場の組合員のもつ力を信じ、その団結力に依拠して組織強化に向けた努力を積み重ねることが原則なはずだ。こんなやり方は、「国労・ＪＲ連合解体」等、革マルの思惑だけを強引に押し通せばいいという発想からしか生まれてこないものだ。東労組はまさに組合員不在の組織なのだ。

しかも、こんな異動を組合がゴリ押しすれば、今度は会社がどんな不当な異動をかけようが文句も言えなくなる。

実際この間、東労組のなかでは、東労組の方針に従わない者を見せしめ的に配転したり、昇進試験を落としたりということも平気で行われており、今回の問題も、こうしたことと全く同根なのである。

## 何の道理もなし

一方、こんな道理の通らない異動を要求されて、それを唯々諾々と認めてしまう千葉支社のあり方も徹底的に弾劾されなければならない。やっていいことと悪いことについて、会社としての矜持まで失ってしまっているのだ。こんなことまでやるのは会社としても末期症状だというしかない。

われわれは、異動に関する団交のなかで、海宝の鴨川転勤の異常さについても追及したが、支社は「会社としての必要性というなかで本人にも打診して行ったが、この場でこれ以上見解を申し上げることはできない。ただ、今後いたずらに住まいと別な異動をするというつもりはない」と言ったきり、何ひとつ答えられない状態だ。

そもそも、鴨川運輸区の要員補充が必要だというのであれば、勝浦運転区の廃止時に京葉運輸区や千葉運転区など遠隔地に配転した動労千葉の組合員がいるのだ。海宝を転勤させなければいけない理由など何ひとつない。

今回の異動は、勝浦運転区廃止－鴨川運輸区設置が不当労働行為意志に貫かれたものであったことを改めて鮮明にしたのだ。

## 東労組を許すな

こんなやり方は断じて許せない。東労組は危機にかられて必死に組織の革マル化を進めている。海宝の鴨川運輸区転勤は、東労組の危機がいかに深いかを示すものだ。今こそ組織崩壊の危機にたつ東労組を解体しよう。